



2021年度 新規開講クラス

幼稚園から大人まで「ひとつながり」の、
本当に大切な学びを求めて。

discite libens = たのしく学べ! (ラテン語)

〒606-8273 京都市左京区北白川山ノ元町 41

大人向けクラス

語学 語学

大人向けクラス

各種お申込み・お問い合わせは、
ホームページ「お問い合わせ」またはこちらへ。
TEL: 075-781-3215 (13:30~21:30 留守録可能)

山ノ学校 検索

※ 大人向けクラスは、意欲ある中高生の参加も可能!
● 担当講師クラス便り (2021年3月) より

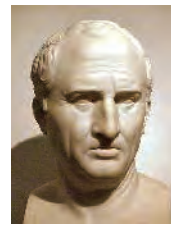
『ラテン語初級文法』 『ラテン語初級講読』B・C 担当 山下大吾

初級文法クラスでは、教科書として岩波書店刊田中利光著『ラテン語初歩 改訂版』を用い、春学期にはそれを一学期で終える速習コースが開講されました。秋学期からは二学期で終える通常コースが開講され、途中受講生の変動がありました。現在オンライン式で参加されているお一方と共にゴールを目指して学習が続けられています。当日その課で学ぶ項目のみならず、以前学んだ範囲を可能な限り復習しながら取り組むように心掛けております。

講読Bクラスでは、引き続きCaさんお一方と共にウェルギリウスの『農耕詩』を読み進めています。先日3歌まで読了し、最終巻である4歌に入りました。3歌では牛や馬、羊などの家畜が主題となっており、その最終部では、1歌最終部の政争の場面と対を成すかの如く、家畜に襲い掛かる不吉な疫病の描写が展開されています。Quaesitaeque nocent artes; cessere magistri. 「対処法は、たとえ見つかったとしても有害である。名医も諦めてしまった」(3.549) という言葉は、この作品の中でのみ意味を成すものである様折らずにいられません。

講読Cクラスの『老年について』では、全85節の80節まで進み、死を巡る考察の場面となりいよいよ読了が間近となりました。受講生は学期ごとに入れ替わりがあり、現在はギリシャ語初級文法も受講されているFさんお一方となっております。

魂の不死を説くにあたってキケローは、プラトーンやクセノポンなどギリシャ先人の思想を基に自説を述べており、註釈には彼らのギリシャ語原文が掲載されています。それらをキケローのテキストと対照すると、彼が先人の言葉のどこを活かし、どこを省き、どこで自らの見解を加えているのか判然とするのみならず、ギリシャ語では分詞構文となっている箇所がラテン語では動詞のある節で表現される傾向があるなど、両言語の性格の違いも分かり、大変興味深いものです。



キケロー

NEW!

zoom
オンライン対応

『ラテン語初級文法』

木曜日 20:10 ~ 21:30 講師：山下大吾

テキスト：『ラテン語初歩 (改訂版)』 (岩波書店)

ご要望に合わせ、テキストを
1学期間 (12回)、または
2学期間 (24回) かけて一通り学びます。
オンライン受講生と通学生で賑わうクラスです。お申し込みはどうぞお早めに!



定員 5名

お早めに!

NEW!

zoom
オンライン対応

『ギリシャ語初級文法』

火曜日 20:10 ~ 21:30 講師：山下大吾

テキスト：『ギリシア語入門 新装版』 (岩波書店)

1年間を目安に、テキストを一通り学びます。
定員5名です。

オンライン受講生と通学生で賑わうクラスです。お申し込みはどうぞお早めに!

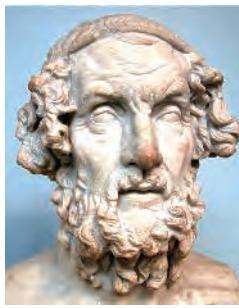


『ギリシャ語初級文法』『ギリシャ語初級講読』A 担当 山下大吾

丁度去年の同時期に、岩波書店刊田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門 新装版』を教科書として開講し、通常参加とオンライン式の方々合わせて秋学期に5名という受講生を迎えた初級文法クラスは、先日無事所定の70課の課程を修了することが出来ました。ギリシャ語という、特に動詞に多様な活用を有し、統辞構造も極めて豊かな内容を持つ言語の学習を一通り達成された受講生の皆様の熱意に心からの拍手を贈りたく存じます。今学期の残りは、教科書の最後に取り上げられているプラトーンの『クリトーン』を読める所まで読むという講読形式の授業となっております。

講読クラスでは、Cuさんお一方と共にホメロスの叙事詩に取り組んでいます。昨年秋学期までに『イーリアス』の1歌を読み終え、現在は『オデュッセイア』1歌を講読中です。ヘクサメトロスの韻律に注意し、一語一語の文法形式を確認し

ながらの講読で、一回の授業で10数行から20行弱というペースで進んでおります。Cuさんはホメロスのみならずウェルギリウスにも関心を抱かれ、ある日『アエネーイス』の訳本で僅かに触れられている神話伝承の出自が何処に当たるのか不思議に思われ私に尋ねられました。調べた結果『イーリアス』の古註(スコリア)に遡るものであることが分かり、ギリシャ・ローマ古典世界の一体性に改めて目を開かれた様です。後日問題となった箇所のスコリアのコピーをお渡しし、その探求心に敬服しつつ責を塞ぐこととなりました。



ホメーロス

幼稚園から大人まで「ひとつながり」の、
本当に大切な学びを求めて。

■ 各種お申込み・お問い合わせは、
ホームページ「お問い合わせ」またはこちらへ。
TEL: 075-781-3215 (13:30~21:30 留守録可能)

※ 大人向けクラスは、意欲ある中高生の参加も可能!

● 担当講師クラス便り (2021年3月) より

山の学校 検索

NEW!

『やさしいラテン語入門』

定員 5名

zoom
オンライン対応

火曜 20:10~21:30 講師: 広川直幸

テキスト: 『初級ラテン語入門』 有田潤 著 (白水社)

2 学期でラテン語の基礎を習得するための授業です。ラテン語は、
古典ギリシャ語と比較すると、初歩の段階で覚えなければならない
文法事項が少ないので、文法を中心にすれば 2 学期で十分全体
像を把握することができます。語学に慣れている人ならば、2 学期
の学習の後、カエサル『ガリア戦記』等を辞書を頼りに読むこと
ができるようになるでしょう。教科書には、読み物を中心に構成さ
れた『初級ラテン語入門』(有田潤/白水社)を用いて、足りない部
分を『標準ラテン文法』(中山恒夫/白水社)で補いながら進めます。



定員 5名

NEW!

『ラテン語 初級』

読んで 聞いて

Hans H. Ørberg, *Lingua Latina I: Familia Romana* (教科書)

話して 書く ことによって

と *Exercitia Latina* (問題集)

ラテン語を一から学ぶ授業です。

週1コマコース: 火曜 18:40~20:00 講師: 広川直幸
週2コマコース: 月・木曜 20:10~21:30 講師: 広川直幸

文法事項を無理やり暗記してから確認のための短文練習問題を解くとい
う方法ではなく、初学者向けにラテン語だけで書かれた教科書を用い
て、イラストを頼りに文脈のある面白い物語を読み、理解と表現を繰り
返すことで総合的なラテン語の力を身につけることを目指します。

今学期から週1コマと週2コマの二つのコースを開講しますが、授
業内容は基本的に同一です。週1コマコースは教科書終了におよそ2
年かかります。週2コマコースはおよそ1年で終了する見通しです。
時間の都合が合うようならば、学習効率の面からも、受講料の面からも、
週2コマコースがおすすめです。



「子の日わく、学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。」言わずと知れた『論語』学而第一の冒頭である。朱熹の集註によれば、「学」の意味は「効(まねる)」であり、「習う」とは「鳥が数多く飛ぶように止むことなく復習する」ということである。まねることにより学んだことを機会がある度に何度も何度も復習するとそれが身につく心の中にじわりと喜びが湧いてくるという意味を表している。これは、古典ギリシャ語やラテン語の学習にも当てはまる。

『論語』は続ける、「朋あり、遠方より来る、亦た楽しからずや。」「朋」は朱熹によると単に仲のよい友達ではなく「同類」を意味する。前文の意味を加味すれば、「同じように学問に志し、心の中に学問の喜びを持つ者」のことである。この文は、同じ学問に志し、学問の喜びを知る者は、近場からは言うに及ばず、労を厭わず遠方からすら集まる。そうすると語らいの内に「楽しさ」が生じるということの意味している。これは授業についてもそのまま当てはまる。(ちなみに、程子の解釈によると「説」が心の中にあるのに対して、「楽」は発散して外にあるものである。そうであるなら、「説」はラテン語の *gaudium* に、「楽」は *laetitia* に相当する。)

今年度は新型コロナウイルスの影響で、遠方からはおろか近くからすら人が集まれないという状態が始まった。「楽しさ」を奪われた状態である。緊急事態宣言が解除されて、6月から山の学校の授業が再開されても、遠方に住んでいるなどの理由で山の学校に来ることができなくなった受講生がいる。可能な限り遠隔授業で対応することにしたので、幸いなこと私が担当する授業に開講したものはなかったが、休会を余儀なくされた受講生が数人いるのも事実である。また、Zoomを用いた遠隔授業は、便利ではあるものの、個人的にはいまだに違和感を感じる。パソコンの画面と音声は、発散された「楽」を伝えきれないだろう。次善の策ではあるが、代用とはなりえないと感じる。

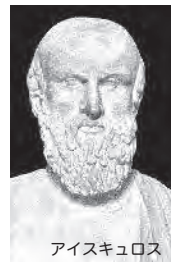
そのような状態で行われた今年度の授業の中で、まず特筆に値するのは、ギリシャ語上級 A が幕を閉じたことである。この授業では、初めにソポクレスの『オイディプス王』を読んでから、アイスキュロスの『テーバイ攻めの七将』『縛られたプロメテウス』『ペルシャ人』『救いを求める女たち』、要するにオレスティア三部作を除く全ての現存作品を読んだ。「読んだ」というのはこの授業の場合、徹底的に本文批判上の問題点を検討しながら精読したということである。このような機会は得がたいものであり、受講生には長年の受講を感謝している。

次に、ラテン語中級 A とラテン語上級で読んでいるブラウトゥスがどちらももうじき読み終わるということが挙げられる。中級 A の『捕虜』は今学期末ごろに、上級の『アンピトゥルオー』は来学期初め頃に終わりそうである。私はどちらかというとラテン語は苦手なのだが、ブラウトゥスを読むことを通じて、ラテン語の生きのよさに触れることができ、親しみが増した。中級 A では次もブラウトゥスを読むことに決まった。『プセウドルス』を読む。古喜劇に対して新喜劇に分類されるブラウトゥスは、笑いも涙もあり、吉本新喜劇に通じるところがある。興味がある方はこの機会をお見逃しなく。

その他の授業については、学期が終わるごとにホームページの情報を更新しているので、そちらを参照していただきたい。

さて、古典ギリシャ語・ラテン語の学習に大切なのは、冒頭に述べた『論語』学而第一の「学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。」に尽きる。教わった語彙や変化表や文章をまねて、根気よく何度も復習し、スラスラと想起、暗唱、理解ができるころまでもって行き、それらの知識を用いて新たな文章を読み、作文をする。そしてこの作業を弛まざり繰り返すことが喜びとなるのである。これは「楽しさ」に通じる道ではあるが、決して「楽な」道ではない。そこで、本居宣長が初学者のためのアドバイスとして記した『うい山ふみ』から、学習者を励ます一説を少々長く引用して終わりとする。

「詮ずるところ學問は、たゞ年月長く倦まずおこたらずして、はげみつとむるぞ肝要にて、學びやうは、いかやうにてもよかるべく、さのみかゝはるまじきこと也。いかほど學びかたかたよくても怠りてつとめざれば、功はなし。又人々の才と不才とによりて、其功いたく異なれども、才不才は、生れつきたることなれば、力に及びがたし、されど大抵は、不才なる人といへども、おこたらずつとめだにすれば、それだけの功は有物也。また晩學の人も、つとめはげまば、思ひの外功をなすことあり。又暇のなき人も、思ひの外、いとま多き人よりも、功をなすもの也。されば才のともしきや、學ぶ事の晩きや、暇のなきやによりて、思ひくづをれて、止ることなかれ。とてもかくても、つとめだにすれば、出来るものと心得べし。すべて思ひくづをるゝは、學問に大にきらふ事ぞかし。」



アイスキュロス

各種お申込み・お問い合わせは、
ホームページ「お問い合わせ」またはこちらへ。
TEL: 075-781-3215 (13:30~21:30 留守録可能)

山の学校 検索

※ 大人向けクラスは、意欲ある中高生の参加も可能! ご相談下さい。

NEW! 『韓国語初級』

zoom
オンライン対応

(時間未定※) 高校~一般対象 講師: 郭 旻錫 (カクミンソク)

テキスト: 『文法がしっかりわかる韓国語』

韓国語が全く初めての方、ちょっと習ったことのある方が対象です。文字を覚えることからはじめ、韓国語の仕組みを理解し、基礎的な文法を身につけることで、簡単な韓国語を無理なく読み、話せるようになることを目標にします。

定員 5名 お早めに!
高校生から受講可能!



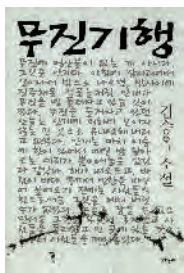
NEW! 『韓国語講読 A』

zoom
オンライン対応

(時間未定※) 高校~一般対象 講師: 郭 旻錫 (カクミンソク)

韓国語の文字や基礎的な文法を一通り学んだ方が対象のクラスです。簡単な韓国語文章を、重要な表現や文法事項を確認しながらじっくり読んで行きます。テキストは、韓国の天才作家金承鉦(1941~)の代表作で、韓国文学界の傑作として数えられる短編小説『霧津紀行』(1964)を用います。簡潔で感覚的な文体で、文学史的にも重要な意味をもつ金承鉦文学、その魅力は、『霧津紀行』で遺憾なく発揮されています。韓国語の美しさを極大化した本作品は、韓国語の学習だけではなく、1960年代の韓国社会の雰囲気味わう上でも、一読の価値がある作品です。

定員 5名 お早めに!
高校生から受講可能!



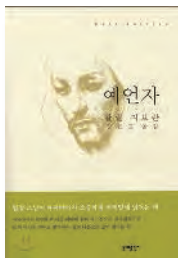
NEW! 『韓国語講読 B』

zoom
オンライン対応

(時間未定※) 高校~一般対象 講師: 郭 旻錫 (カクミンソク)

韓国語の文字や基礎的な文法を一通り学んだ方が対象のクラスです。簡単な韓国語文章を、重要な表現や文法事項を確認しながらじっくり読んで行きます。テキストは、現代の聖書と呼ばれるカール・ジブランの『預言者』(1923)を、韓国の著名な詩人姜恩喬が訳した韓国語訳を用います。姜恩喬訳の『預言者』は、ジブランが『預言者』で表現しようとした人生の智慧に対する豊かな含蓄を伝えながらも、韓国語特有のリズムや美しい響きを生かしたレベルの高い訳になっています。『預言者』韓国語訳の文章は簡潔で平易ですが、そこに含まれている意味は決して浅くありません。その意味を吟味しながらじっくり読んでいきます。『預言者』は日本語訳も出ているので、日本語訳と対照しながら読み進めるのも、韓国語特有のリズムや響き味わう一つの方法になりうと思います。

定員 5名 お早めに!
高校生から受講可能!



※「韓国語クラス」はいずれも水または木曜日 18:40~21:30 で調整予定 (2021年3月時点)

NEW!
zoom
オンラインのみ

『漢文入門』

水曜 17:10~18:30 予定

講師: 斎藤 賢

テキスト: 『史記會注考證』ほか (詳しくは下記を御覧下さい)

はじめまして。今年度より「漢文入門」講座を担当することになりました、斎藤賢です。この講座では『史記會注考證』を主なテキストとして読み進めていく予定です。司馬遷の『史記』は日本において最も有名な歴史書であると言っても過言ではなく、ご存じのかたも多いことかと思われそうですが、『史記會注考證』という書名は見慣れないものかもしれません。瀧川亀太郎博士の手になり、1932年から34年にかけて刊行されたこの書には、南朝宋・裴駰の『集解』、唐・司馬貞の『索隱』、および張守節『正義』(これらは「三家注」と称されます)に加え、瀧川博士が清朝考証学者や江戸時代の学者の説なども取り込んで書いた「考證」が附されています。『史記』といえは翻訳書も多数出版されており、あるいは、いまさら『史記』なんて...と思われるかたも、おられるかと思います。しかし、歴代多くの注が作られてきたことからわかるとおり、『史記』は決して簡単な書物ではありません。『史記』の文章の正確な意味や、細かなニュアンスなどは自身で原文(と注釈)を読み、考え、理解するしかない、といえるでしょう。古代から近代にいたる中国や日本の読者とともに『史記』を読み解くことができる、その意味において『史記會注考證』は非常に魅力的なテキストだと思います。

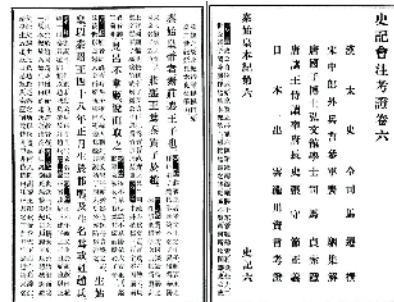
授業に際しては、まず受講生の方のレベルに合わせて漢文法を解説し、その後テキストを読み進めながら、「反切」や「通假」「避諱」といった、実際に漢文を読むために必要な知識について説明していきます。『史記會注考證』のどの部分を読むかについては、受講生の皆さまのご関心に沿って決定したいと思います。また、主なテキストは『史記會注考證』としますが、『史記』にみえる説話については、それに関わる文章が『戦国策』や『呂氏春秋』『韓非子』といった他の書にも残されている場合があり、「そちらも読んでみたい!」といったご希望も大歓迎です。授業の形式としては、毎回、受講者の方にテキストを事前に読んできてもらい、授業では漢文の訓読、及びその日本語訳をしていただきます。その際、最も重視するのは漢文の文法が理解できているか否か、ということです。学校教育ではしばしば「~という字は~と読まなければいけない」といった教えかたをしますが、漢文の訓読の仕方はもっと自由なものであり、文法に合ってさえいれば、どのように訓読しても構いません(もちろん、漢文訓読の伝統は疎かにできませんが)。

また、この授業ではただ単に漢文を読めるようになる、ということだけではなく、その漢文の背景にある歴史や社会・文化などを理解する、ということを重視したいと考えています。そのため、関連する文献や考古学的遺物などもご紹介しつつ、『史記』の対象とした古代中国がイメージできるような授業を目指します。

漢文は決して無味乾燥な漢字の羅列などではありません。とりわけ『史記』は上古の聖王の治世に始まり、殷周の交替、春秋の覇者、戦国の烈士、楚漢の死闘などを叙述し、さながら大河ドラマのような迫力をもっています。また、『史記』の魅力として、人間という存在に対する鋭い洞察が挙げられるでしょう。例えば、伯夷叔斉列伝では、伯夷叔斉が義を貫いて終には首陽山で餓死したことを記した司馬遷は、一方では非道な人物が一生楽しく豊かに暮らしているのに、他方では正直に真面目に生きている人間が災禍に遇うことを述べ、「余甚だ焉に惑う。儻は所謂天道、是なるか非なるか。」(「余甚惑焉、儻所謂天道、是邪非邪」)と問っていますが、この嘆きには現代であっても多くの方が共感を持たれるのではないのでしょうか。これは一例にすぎませんが、『史記』には読者を思索に導いてくれる内容に満ちています。

些か煩雑になりましたが、この講座の目的は「漢文を楽しく読む」ことに尽きます。受講生の方が、ご自身で『史記』を読み、考え、理解し、それらを人生の糧としていただくことができれば、望外の喜びです。

最後になりましたが、本講座は今学期より Zoom を利用し、遠隔授業で行いますので、京都に居られない、という方もご参加いただけるようになっております。どうぞ奮ってご参加ください。





2021年度 新規開講クラス

幼稚園から大人まで「ひとつながり」の、
本当に大切な学びを求めて。

disce libens = たのしく学べ! (ラテン語)

〒606-8273 京都市左京区北白川山ノ元町 41

大人向けクラス 語学 語学 大人向けクラス

各種お申込み・お問い合わせは、
ホームページ「お問い合わせ」またはこちらへ。
TEL: 075-781-3215 (13:30~21:30 留守録可能)

山の学校 検索

ギリシャから、オンライン授業! 定員5名 お早めに!

※ 大人向けクラスは、意欲ある中高生の参加も可能! ご相談下さい。

NEW! 『ドイツ語 初級』

zoom
オンライン対応

定員5名 お早めに!

中高生から受講可能!

土曜日 (又は金曜日) 午前 講師: 吉川 弘晃

初級クラスでは、基礎的な文法や語彙を訓練することで、辞書があれば簡単なドイツ語の文章を読めるようになることを目指します。受講生のレベルに応じて、教材を決めていきますので、一度習ったけれども途中で挫折してしまった方、ABC (アー・ペー・ツェー) からはじめたい方、学校で習う英語に飽きてしまった中学・高校生の方、どんな方でも歓迎いたします。

NEW! 『ドイツ語 講読』

zoom
オンライン対応

定員5名

お早めに!

土曜日 (又は金曜日) 午前 講師: 吉川 弘晃

講読クラスでは、ドイツ語で書かれた様々な文章を読みながら、中級文法や語彙を学ぶと共に、ドイツ語圏文化の豊かさに触れていきます。既に初級文法を一通り学び終えた人を対象としますが、テキストは受講生のレベルに合わせて決めますし、文法の穴はその都度ゆっくり確認していくので、心配はご無用です。授業形式は、基本的には音読・訳読・講師のコメントの三つを繰り返しながら進んでいきますが、希望があれば語彙力のトレーニングなども行います。教科書は以下のようなものを考えていますが、受講生の希望があれば、なるべくそれを授業に反映させるようにします。

①カール・ラートゲン『日本人の国家と文化』(Staat und Kultur der Japaner)

1880年代に「御雇外国人」として来日し、法律や経済の知識を伝えることで日独関係の深化に努めたラートゲンが帰国後に著した日本論の一つです。ドイツ人が明治時代の日本をどのように見ていたのかを学ぶことができます。なお、彼の日本に関する著作は、20世紀最大の社会学者であるマックス・ヴェーバーにも影響を与えています。



②エッセイや小説・翻訳 (日本語からの翻訳)

古典から現代文学 (例えば『古事記』や三島由紀夫など) まで、日本語からドイツ語に翻訳されたものを使って、原文と訳文を比較・検討することで、二つの言葉=世界のはざまを楽しんでいきましょう。見事な翻訳に驚くこともあるでしょうし、思わぬ誤訳・珍訳に笑ってしまうこともあるでしょう。

初級クラス・講読クラス、両者に当てはまることですが、日本や日本人が海外からどう認識されているかをテキストで学ぶことは、「コロナ禍」で異文化コミュニケーションのコストが高騰するなか、その訓練として実は「お得 (im Angebot)」ではないでしょうか。

NEW! 『現代ギリシャ語 初級文法 1』

Skype
オンライン対応

月曜日 20:10 ~ 21:30 予定、応相談 講師: 福田 耕佑

- ①「口語ギリシャ語 (ディモティキ)」
今でもギリシャ人たちによって話されている現代ギリシャ語の口語を学びます。講義の中で扱うテキストや進め方は基本的に受講者の皆さまと相談しながら決めていきたいと思っています。こちらからの案として、
《文法・会話》 Δ. Δημήτρα, και Μ. Παπαχεϊμώνα, Ελληνικά Τώρα, Νόστος, Αθήνα, 1987
(D. デミトラと M. パパヒモナス 著『今日のギリシャ語』)
《講読》 ヨルコス・セフェリス著『ギムノペディア』より「俳句十六帖」
ニコス・カザンザキス著『日本旅行記』より「京都」「日本の庭」「茶の湯」など。
- ②「文語ギリシャ語 (カサヴレサ)」
今日でも法律や学術論文、また格式高い文章に用いられる現代ギリシャ語の文語を学びます。旅行や日常生活の中でももちろん使われませんが、新聞や一般書籍を読みこなしていく上では避けて通ることができません。もちろん文語による優れた (現代!) ギリシャ古典作品も多く残されています。感覚としては、文法は古典ギリシャ語、統語論は現代ギリシャ語といったハイブリッドです! 古典ギリシャ語が現代ギリシャ語のどちらかを既に学んでいることが望ましいです。
講義の中で扱うテキストや進め方は基本的に受講者の皆さまと相談しながら決めていきたいと思っています。こちらからの案として、
《文法》 ΓΡΑΜΜΑΤΙΚΗ ΝΕΑΣ ΕΛΛΗΝΙΚΗΣ ΓΛΩΣΣΑΣ
《講読》 アレクサンドロス・ババディアマンティス『海辺の女』(地の文が文語、会話文が口語) など。

●担当講師クラス便り (2021年3月) より

『現代ギリシャ語』担当 福田 耕佑

この一年はギリシャや日本を含めた全世界がコロナ禍で大きな苦しみを被った年でした。講師の福田は今年もギリシア・テッサロニキから Skype で授業させていただきました。授業を通して今年は何詞と形容詞の曲用を学び、さらに一般動詞の活用を学びました。一步一步着実に文法のテキストを前に進めています (「初級文法2」クラス)。



エギナ島のカザンザキスの家。当地で日本旅行記を執筆した。

個人的な話ですが、講師の福田は現在テッサロニキで京都大学に提出する、ニコス・カザンザキスという日本にも訪問し、日本に関する旅行記も書いた作家の作品と思想に関する博士論文を執筆しています。この関係で、ギリシャに来たのにも関わらず、日本の能や石庭、また絵画等の文化に関する研究や武士道と日本の死生観等を改めて勉強し、且つ自分の携わっていることを報告するためにカザンザキスというフィルターを通して日本をギリシャ語で表現する機会に恵まれました。ギリシャ人に日本のことを知ってもらう機会を持てたのは嬉しかったのですが、外国人に説明するために自分の中で日本を突き放した視点で見て、日本語で日本を説明する際には普通に用いる言葉が使えない状況で何とか言葉を尽くして説明せねばならないことには四苦八苦しました。また、カザンザキスは日本について「日本ほど古代ギリシャを思い起こさせる国はない」と語るように、日本と古代ギリシャ文化の類似点を『日本旅行記』の中で指摘しており、ギリシャとの比較の中で描かれた日本を見るという機会にも恵まれました。

いよいよ帰国の日も少しずつ近づいてはいるのですが、ギリシャ文学を更に学びに来たのに、コロナ禍によって古今のギリシャ古典と共にテッサロニキの自室に閉じ込められることで逆に日本について外の視点に立たされた上で深く見つめることになり、本当に人生何がどうなるかわからないと嘆息させられた一年でした。皆さまにも、現代ギリシア文学の古典作家であるカザンザキスの作品と彼の描いた日本像をお届けできる日が来るように尽力していきたいと思っています。

詩という言葉があなたに連想させる言葉はなんですか?あるいは、あなたの周りの人は、詩という言葉を他のどのような言葉と一緒に使うことが多いですか? おそらく、感性、センス、感動、独創性あたりの言葉だと思います。言ってみれば、詩とは独自の感性を持つ詩人の思いの発露であるから、読み手も同じくらい感性が豊かでないと理解できない、とどこか思われている節があるのではないのでしょうか。

これはなんとも残念なことです。感性が豊かであることが悪いわけではありません。大前提として、詩には感性では語りきれない「あたまでかち」な部分があるのです。詩というのは、実のところ、理屈っぽいところもあればパズルのようなところもあります。ですから、詩人の小理屈や謎々のようなものに付き合っただけで伴走してあげれば、なんだかんだいろいろ分かってきます。初めから感性の問題にしてしまうからこそ、詩というものの敷居がいやに高くなってしまいうんすよね、きっと。

そこで、世に言う感性だけに頼ってでは絶対に分からないワンポイントを、このさい紹介してみたいと思います。詩の韻律という小うるさいルールを理屈っぽくこねくりまわして、そうして初めて見えてくる詩人の技巧を、パズルのように解いてみましょう! 例として用いるのは、シェイクスピアの『ソネット集』から「ソネット24番」冒頭です。この詩では、恋人たちが見つめあっている、語り手は恋人の瞳に映る自分の姿、より具体的には、自分の肉体の胸と、その胸の内語り手が絵を描くかのように想い描いている恋人のイメージを見つめる様子を歌っていきます。要するに、恋人の瞳を鏡にして自分自身の胸の内を覗き込む、といった感じでしょうか。さて、いわゆるソネットという詩形の小うるさいルールのひとつに、**弱強**、つまり「**ダンダン**」という音のユニットが基本単位というものがあります。具体的には **To be, | or not | to be.** のリズムですね。ちなみに、ソネットの場合そのユニットは1行に5個必要ですから、24番の冒頭は、

Mine eye hath played the painter and hath steeled
Thy beauty's form in table of my heart.
My body is the frame wherein 'tis held,
And perspective, it is best painter's art.

[ぼくの目は画家の役割、君の美の似姿を
ぼくの心の銘板にしかと刻み込んだ。
その絵を納めるのはぼくの生きた体、
正しい角度から見てくれさえしたら、それは最高の絵だと思ふよ。(大場訳)]

となっているわけです。さて、上の引用ではこのルールが厳格に守られているのがわかりますね。ところが、イタリック体にした perspective という単語に注目して欲しいのです。これは大場先生が「正しい角度から見てくれさえしたら」と副詞的に訳している単語ですが、強く読まれる場所がおかしいことにお気づきになりましたか? そうです、per-spec-tive という言葉は、見ての通り、ラテン語の specto(見る)に由来する真ん中の部分が意味の中心ですから、本来、perspective というように、そこに強い音が来ないとイケないはずなのです。日本の高校生が perspective を perspective と読めば、間違いなく英語の先生に怒られるでしょう。

つまり、ソネット24番の冒頭はリズムの面で歪んでいるのです。これはなぜでしょうか? シェイクスピアが下手くそだから? いえいえ、そんなことはありません。その答えは、perspective という単語がどのような意味で使われているのかを探れば見えてきます。perspective とは、シェイクスピアの時代において、正面から見れば歪んでいるけれども、角度を変えて見てみると正しい絵が浮かび上がる「アナモルフォーシス」という絵画の技法を意味していました。この技法を用いた例として有名なものに、ホルバインの《大使たち》という絵画作品がありますが、画面下に斜めに走っている物体を右から角度をつけて見てみれば骸骨に見えるように工夫がされています。ちょうどそのように、24番の詩においても、相手をそのまま真っ直ぐ見るというよりも、自分の心の内にある恋人のイメージを、恋人の瞳に映った自分の胸を凝視することで見てくれようぞ、という変態的な視線で見ていることは先ほど確認しました。まさに角度をずらして見る「アナモルフォーシス」、すなわち perspective と言えましょう。そして詩人はそのような視線の歪みを利用した絵画技法に言及するにあたって、単語のリズムを歪ませている。これは絵画を詩歌で以って模倣しようという試みに他なりません。上の引用をもう一度見直してみても、他の部分は完全にルールに従って綺麗なリズムとアクセントで書かれていますので、シェイクスピアがこれを狙い澄まして書いているということがわかります。これには舌を巻かずにはいられませんね。

さて、神は細部に宿らしいですけども、その細部というのが詩の場合にはルール違反スレスレの場所だということがお分かりになったかと思います。これは、詩人たちが守らなければならない共通のルールを学べば、そこからルール違反を探すことで味わいどころを逆算できるということを意味します。詩を読むセンスなるものがあるとすれば、それはルール違反を探す要領がいいか悪いかの話しに過ぎないと思います。また往々にして、味わいどころがわかるからこそ感動もできるのです。だからこそ、詩のルールを学ぶことこそが王道です。そのためいつも文法の話、韻律の話、そんな話ばかりしている気がしますが。

NEW!

zoom
オンライン対応

『教養英語』

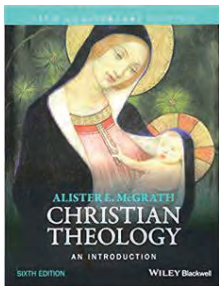
定員 5名

お早めに!

(時間未定) 講師: 塩川礼佳

テキスト: Alister McGrath, *Christian Theology*

知的な読みものに英語で親しみたい方を歓迎します。テキストは、上記第6版から適宜選び、重要主題に触れていただく予定です。



NEW!

zoom
オンライン対応

『英語講読』

定員 5名

お早めに!

ディケンズ「ボズのスケッチ」を読む

テキスト: Charles Dickens, *Sketches by Boz* (時間未定) 講師: 坂本晃平

イギリスの国民作家と言われるチャールズ・ディケンズは、まだ駆け出しの記者だったころ、ひんぱんに新聞に作品を投稿していました。それらをまとめて出版した作品集である『ボズのスケッチ』が、彼の処女作と言われています。本クラスは、こちらの作品集を読んでいくことを目的としています。ひとつの作品はどれも5ページ前後の長さですが、どれもユーモアと皮肉とがたっぴりと効いていて若いディケンズの作家としての意気込みを感じさせます。そのぶん読み解くのも容易ならざることも多いですが、わかればわかるほど面白くなっていく作品と言えるでしょう。

(ディケンズの英語自体それなりに難しいので、高校英文法の水準はしっかりと理解していることが望ましいです。従って、ある程度の難しさの英語の小説を自分ひとりで読めるようになることがこのクラスの到達目標でもあります。)



『英語で味わう』

定員 5名

(空きあり)
2021年3月時点

zoom
オンライン対応

シェイクスピアのソネット

火曜 18:40~20:00 講師: 坂本晃平

みんなが知ってる『ハムレット』から、宝塚の『ウェスト・サイド・ストーリー』、あるいは黒沢の『蜘蛛巣城』から、はたまた漫画『薔薇王の葬列』やアニメ『絶園のテンペスト』にいたるまで、いろんなところで馴染みはあるけど自分じゃなかなか読めなくて・・・。そんな文人シェイクスピアが書いた詩の作品集にチャレンジしてみませんか?

テキストには、大場健治訳『ソネット詩集』(研究社)を使いたいと思います。対訳形式でとても丁寧な注釈がついているので、一冊もって山に登れば鬼に金棒、怖いものはありません。一篇のソネットは150字にも満たないほどの短い詩ですが、それぞれに豊かな世界が広がっているはず。詩が好きの方はもちろん、古くて格調高い英語を読んでみたい方も、みんなでああかもしれないこうかもしれない言いながら、イギリス=ルネサンスの世界に出かけてみませんか?



幼稚園から大人まで「ひとつながり」の、
本当に大切な学びを求めて。

各種お申込み・お問い合わせは、
ホームページ「お問い合わせ」またはこちらへ。
TEL: 075-781-3215 (13:30~21:30 留守録可能)

山の学校 検索

〒606-8273 京都市左京区北白川山ノ元町 41

NEW!

zoom
オンライン対応

『ロシア語 入門』

定員 5名

お早めに!

木曜 午前予定 (時間応相談) 講師: 山下 大吾

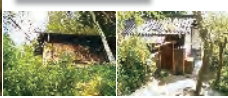
テキスト: 『名作に学ぶロシア語』 (井桁貞義著/ナウカ出版)

ナウカ出版の 井桁貞義著『名作に学ぶロシア語』を教材に用いてロシア語の初歩を学習します。

プーシキンやチェーホフを始めとする 19 世紀の古典作家のみならず、ブルガーコフなどソビエト時代に執筆活動を行った作家の原典を味わいながら、少しずつ無理なく文法が習得できます。奥深く幅広いロシア語ロシア文学の世界。静かなお山の離れの間で、その豊かなひと時をご一緒にできれば幸いです。



プーシキン



「離れ」の教室

zoom
オンライン対応

『ロシア語 講読』

定員 5名

(空きあり)

木曜 14:30~15:50 講師: 山下 大吾

2021年3月時点

● 担当講師クラス便り (2021年3月) より

当クラスでは引き続き、受講生 T さんお一方と共にロシア文学の作品を読み続けています。春学期は新型コロナその他の影響で休講となりましたが、秋学期からオンライン式で再開となり、旧蔵にはこの数年底本として用いていた Gleb Struve 編集のロシア語読本所収の作品を全て読み終えるという節目を迎えました。読本の年代的配置に従って、ソログープ『囚われの身』、プーニン『日射病』、ザミャーチン『洞窟』、パーベリ『ドルグシヨフの死』、ゾーシチェンコ『クリスマスにまつわる話』と 20 世紀の短篇を読み進めてきましたが、ソログープの子供ならではの純真な思いから繰り広げられる悲喜劇と、ザミャーチンの革命直後の混乱した現実と奇妙な幻想とが、独特の映像的手法を織り込みつつ一体となった世界、月もなく影に満たされた、希望の見えない洞窟の描写が特に印象に残っています。

この 1 月からは、6 年前に始まったチェーホフの短篇から散文作品の講読が続いてきたので、改めて詩を読みたいとの T さんのご要望もあり、Julia Titus 編集のロシア語詩読本を基にして詩の講読に取り組んでいます。読本は 19 世紀のプーシキンに始まり 20 世紀のエッセニンで終わるという構成になっていますが、以前プーシキンやレーレモントフを始めとした 19 世紀の代表的な詩作品を読んだ経験もあることから、今回は時代を遡る形でエッセニン、マヤコフスキからプーシキンへと順番で読むことに致しました。少々型破りな脚韻やリズムなど、古典的な詩形では見られない形式や内容を楽しみつつ、詩行の背後に込められた真意を巡って、T さんと一篇ごとに意見を交換し合いながら講読を続けています。



マヤコフスキ

※ 大人向けクラスは、意欲ある中高生の参加も可能! ご相談下さい。

NEW!

zoom
オンライン対応

『0 から 1 へのフランス語入門』

B クラス (曜日時間未定・応相談)

講師: 谷田利文

A クラス 月曜 15:40~17:00

講師: 谷田利文

4 月から新規開講可能! 習い始めたい方は、是非この機会にお問い合わせ下さい。

2020年9月から、初めて習う方へ向けたクラスとして開講中。テキスト進捗度についてはお問い合わせ下さい。一度習った方の学び直しなどに!

知らない言語は、意味のない記号にしか見えません。この講座では、フランス語の基本的な文法や表現を学ぶことで、そのような段階を突破し、辞書を使えば、時間はかかってもフランスが読めるという段階を目指します。フランス語に興味はあるけれど、一人ではなかなか始められない方など、関心がある方はお気軽にお問い合わせください。少人数制で個人の学習段階に沿った内容で丁寧にサポートいたします。

NEW!

zoom
オンライン対応

『フランス語 講読 B』

定員 5名

お早めに!

隔週土曜 10:30~13:20 講師: 渡辺洋平

もしフランス語の原文で読んでみたい本や文章がある場合、お気軽にお問い合わせください。ジャンルや難易度は問いません。

ちょっと難しめの哲学書 (ベルクソン) を読んでいる「講読 A」(日曜隔週) クラスもございます。



定員 5名

お早めに!

NEW!

zoom
オンライン対応

『中級フランス語 (読解)』

A クラス 月曜 14:00~15:20 (新規開講となる場合は時間応相談) 講師: 谷田利文

B クラス 金曜 18:40~20:00 (新規開講となる場合は時間応相談) 講師: 谷田利文

A・B いずれも、文法を一通り学んだ経験のある方が、文法を学び直しつつ、文章の読解を行っております。

「A」では現在、Maurice Branchot, *L'espace littéraire* の講読と、文法の復習を並行して行っています。「B」では現在、Colette, *La chatte* の講読を行っています。

4 月からはご要望に合わせた難易度・内容で新規開講が可能です。



幼稚園から大人まで「ひとつながり」の、
本当に大切な学びを求めて。

各種お申込み・お問い合わせは、
ホームページ「お問い合わせ」またはこちらへ。
TEL: 075-781-3215 (13:30~21:30 留守録可能)

※ 大人向けクラスは、意欲ある中高生の参加も可能! ご相談下さい。

山の学校 検索

〒606-8273 京都市左京区北白川山ノ元町 41

定員 5名 (空きあり)
2021年3月時点

NEW!
zoom
オンライン対応

『イタリア語 入門』

月曜 18:40~20:00 講師: 柱本 元彦

イタリア語は全くの初めて、またはちょっとか
じったことがある、という方対象のクラスです。
ゼロから学び始めたい方は、この機会をどうぞ
お見逃し無く!



「離れ」の教室

定員 5名 (空きあり)
2021年3月時点

zoom
オンライン対応

『イタリア語 講読』

ガイドランスでは、オペラの韻律のお話を
しようかと考えているそうです。(講師談)

火曜 18:40~20:00 講師: 柱本 元彦

テキスト: Ennio Morricone Giuseppe Tornatore ENNIO UN MAESTRO

2021年1月から読み始めたこちらのテキストは、『ニュー・シネマ・パラダイス』や『アンタッチャブル』
『海の上のピアニスト』など、数々の映画音楽を手がけたことで有名な作曲家で、2020年7月にこの世を
去った、エンリオ・モリコーネへのインタビューです。

インタビューは、『ニュー・シネマ・パラダイス』の監督のジュゼッペ・トルナトーレで、まだイタリア
アでも出版されたばかりです。

インタビューなので、会話文が中心で、一回のクラスで2~3ページのペースで進んでいます。

4月からは、ご要望に応じてテキストを変更する可能性もございます。ご相談下さい。

これまでのテキスト: ダンテ『新生』、ペトルルカ『カンツォニエーレ』抜粋、イタロ・カルヴィーノによる『狂えるオランダ』。カルロ・
レーヴィやラッファエーレ・ラ・カプリアの小説、ルイジ・ピランデルロやアントニオ・タブッキの短編、マッシモ・ミラのオペラ論、フェ
デリーコ・ゼーリやエリアス・カネッティのエッセー、そしてロレンツォ・ダ・ボンテのリブレットやピエール・バオロ・バゾリーニのシナ
リオなどを読んできました。2019年2月~2020年3月は、ステファノ・ベンニ『プレンドルナ』を読んでいました。

● 担当講師クラス便り (2021年3月) より

『イタリア語入門』『イタリア語講読』 担当 柱本 元彦

イタリア語入門クラスと講読クラスを担当しています。入門クラスに参加していらっしゃるの
はイタリア留学を計画している中学一年生と彼女のお母さまで、いつもとは違った対応をしなく
てはならないのが、難しくもありますが新鮮でもあります。最近では大学でも英語の基本文法を前提
にできないケースがあり、やり方を見直す機会かなとも思っています(英語の基礎力のない大
学生を認めるのはマゾヒスティックな気もしますけれど)。イタリア滞在経験者のお母さまの質問
には時折たじたとになりますが、このフォローがまたペースの調整にもなって、暗中模索ながら
なんとか進めているところです。順調にいけば、もうすぐ人称代名詞・近過去・半過去の山を越
えることができ、そうするとさまざまなシーンに立ち向かえる幅がぐっと広がります。ただ何よ
りも励みになるのが現地を体験することですから、いつイタリア旅行ができるのかも分からない
コロナ状況は辛いですね。



講読クラスは、前回の初級クラスのもち上がり
です。初級クラスでは比較的易しい短編集を読み
ながら文法事項を確認していきました。講読クラ
スのテキスト選択に遠慮はないのですが、まだ初
級あたりですから、センテンスが短く会話に近い
ものかと思ひ、たまたま入手した近刊、昨年
亡くなった音楽家エンニオ・モリコーネに映画監督ジュゼッペ・トルナトーレがインタビューし
たものを選びました。けれども会話文には会話文の難しさがあり、より多くのコンテキストを想像
しなくてはなりません。モリコーネにはセンチメンタルな映画音楽の作り手というイメージがあり
ますが、そうではなく、ニーノ・ロータにも比べられる立派な作曲家です。彼が考えてきた事柄と
彼をとりまく時代・人々が織り込まれた文章は、なかなか読みごたえがあり、音楽にも詳しい受
講生N氏の解説も頼りにしながらゆっくりと進めています。

● 講師プロフィール



柱本元彦 (はしらもととひこ) 1961年生まれ。京都大学大学院博
士後期過程修了。ナポリ東洋大学講師などを経て、現在は大学非常
勤講師、翻訳家。訳書にフェッリーニ『魂のジュリエッタ』(青土社)、
ランドルフィ『カフカの父親』(共訳、国書刊行会)、カッチャーリ『必
要なる天使』(人文書院)、エーコ『カントとカモノハシ』(岩波書店)、
レオパルディ『カンティ』(共訳、名古屋大学出版会) など。

幼稚園から大人まで「ひとつながり」の、
本当に大切な学びを求めて。

■ 各種お申込み・お問い合わせは、
ホームページ「お問い合わせ」またはこちらへ。
TEL: 075-781-3215 (13:30~21:30 留守録可能)

山の学校 検索

※ 大人向けクラスは、意欲ある中高生の参加も可能! ご相談下さい。

『西洋近代思想の古典を読む』A

NEW!
zoom
オンライン対応

『西洋近代思想の 古典を読む』



各 定員 5名
お早めに!

Aクラス 木曜 18:40~20:00 予定 講師: 谷田利文
Bクラス 月曜 20:10~21:30 予定 講師: 谷田利文

B枠では、**2021年3月15日**にガイダンスを開き、参加者、担当講師が読書談義を行い、顔合わせをします。クラスがスタートした場合のテキスト第一候補は今の所、ホップズ『リヴァイアサン』の予定です、ガイダンスで、他にも読みたいものが出てくるかもしれません。

● クラス実施例

- ・ 受講者の方と相談して、比較的読みやすい古典を選んで読んでいきます。基本的人権や抵抗権を確立した著作として有名な、ロック『統治二論』や、マキアヴェッリ『ディスコルシ』などを読みます。一人では読みにくい古典をこの機会に読みたいと思われた方は、お気軽にお問合せください。
- ・ 西洋近代思想のキーワードである社会契約論、自然法論について学ぶことを目的とし、まず『近代政治哲学——自然・主権・行政』(國分功一郎著 / ちくま新書 / 2015年)を用いて知識を整理し、ホップズ、ロック、ルソー等の古典の読解に進みます。
- ・ 誰もが知っているが、実際に読んでいる人は少ない、そんな古典の中でも、真っ先に名を挙げられるのがアダム・スミスの『国富論』でしょう。



興味はあるが一人では読む気になれないという人や、大学時代、教養のために岩波文庫を買い集めたけれど、本棚に置いたままという人など、これを機会に、西洋近代の古典を実際に読み、みんなで議論してみませんか。教室では、私が質問に一方的に答えるのではなく、みなさんが現代社会に生きる中で、経験していることや、考えていることを、スミスの文章と関連させながら、自由に発言してもらいたいと考えています。

テキストは、アダム・スミス、大河内一男監訳『国富論1・11・111』(中公文庫)で、毎回、担当の方にレジュメを作ってもらい、それを基にみんなで議論するという形をとります。教室でお会いできるのを楽しみにしています。



● 担当講師クラス便り (2021年3月) より

この講座では、マキアヴェッリの『君主論』からスタートし、『ディスコルシ』に進んだ後、途中で理論的な整理をしたいという要望があり、現在は、國分功一郎氏の『近代政治哲学——自然・主権・行政』(ちくま新書)を読んでいます。古典を読む際、思想史の研究者には、当時の時代状況や、思想家の意図を理解し、時代錯誤的な解釈に陥らないことが求められます。一方で本講座のように、研究のためではなく古典を読む場合、時代も国も違う現代の日本人が読む意義を問わざるをえません。

全ての本は時代の制約を抱えていますが、ロックの抵抗権の思想が、現代のギリシアで独裁を打倒する際に読まれたように、古典には時代や場所を超えた力があることもまた、否定できないように思われます。ロジェ・シャルチエは、読書とは著者の意図とは異なる誤読や読み替えが繰り返される過程だとしましたが、本講座においても、できるだけコンテキストをふまえないながらも、古典がもつであろう力、思いがけない過去と現代の結びつきを、その読解と議論の中で期待したいと考えています。

また、このような古典の普遍的な力に期待するだけでなく、優れた過去の古典を読むことは、現代当たり前のように用いられている言葉や制度をその起源から再検討する機会を与えてくれます。國分氏の著作は主権や民主主義の捉え直しを図る野心的なものです。同じく私たちが古典の読解と議論を通して、現代社会に対して抱く様々な問題関心や疑問を、その起源から問い直す機会にしていければと思います。

『近代政治哲学』を読み終えた後は、ホップズ、スピノザ、ロック、ルソー、ヒュームと西洋近代思想の古典を実際に読んでいく予定です。関心がある方は、是非ご連絡ください。

● 受講生の感想 (2020年3月「山びこ通信」) より

2019年10月から谷田先生の「西洋近代思想の古典を読むA」を受講しています。受講理由は、経済学を学ぶ上で思想に触れることは不可欠であると感じていたからです。データの科学的分析や高度な数学を用いたモデル化などの工学的手法が今の経済学の主流になっています。ぼくもそのような経済学を大学で学んでいるところですが、その一方で「人間とは何か」という根源的な問いを考える必要があることに気づきました。

自主的に古典を読むのはなかなか骨が折れますが、先生の分かりやすい解説のおかげで難なく読みすすめることができている。疑問点があればすぐに聞くことができ、しかもその先の議論まですることができると、まるで新しい自主ゼミに所属した気分です。これまでにマキャベリ『君主論』(池田廉訳、2018、中央公論新社)と(途中までですが)『ディスコルシ』(永井三明訳、2011、筑摩書房)を読み、思想の流れをいま一度つかむ必要があると感じたので、今は國分功一郎『近代政治哲学: 自然・主権・行政』(2015、筑摩書房)を読みすすめています。このように受講生のニーズに答えてくださるのもありがたいです。

いちばん印象に残っているマキャベリズムについて少し書きます。よく危険な思想と言われるマキャベリズムですが、『君主論』を実際に読んでみると、大衆の性質とその扱い方を実にリアリスティックに描いたものであることがわかります。現代の政治の場でもこれに似た思想を感じる時があります。好き嫌いの単純な感情で反射的に物事に反応するのではなく、思想の中身をまっすぐ理解することの重要性を知りました。

「経済学者は、数学者、歴史家、政治家、哲学者といった才能をある程度ずつ持っていなければならない」と経済学者ケインズは言いました。もっと様々な学問分野に触れる必要があることを認識させてくれる言葉です。その機会を豊富に提供してくれている山の学校に感謝します。(受講生 浅野望)

『西洋近代思想の古典を読む』B

● 担当講師クラス便り (2021年3月) より

この講座では、ホップズの『リヴァイアサン』を、毎回担当される方にレジュメを作ってもらい読みました。モンテスキューやルソーとの違いを解説したり、ホップズが主権の絶対性を強調する中、その権力の制限がどのように考えられているか等について議論しました。古典は、それが書かれた時代の制約の下にあります。他方で何百年も読み継がれてきた、時代を超える豊かさも持っています。個々の思想家についてその概要を学ぶだけでなく、実際に読んでみることで思わぬ発見が得られることを期待しています。

読んでみたい古典がありましたら、気軽に連絡していただければと思います。

『現代社会を考える (MMTを理解する)』
『経済』

● 担当講師クラス便り (2021年3月) より

NEW!

zoom
オンライン対応

定員 5名 お早めに!
『現代社会を考える
(MMTを理解する)』

金曜日 20:10~21:30 (予定) 講師: 谷田利文



参院選で話題になり、コロナ禍の中で、再び関心が高まっている MMT (現代貨幣理論) を理解することを目標としています。MMT については、その賛否をめぐって激しい議論がなされていますが、この講座ではどちらかの立場に立つのではなく、まずは理解を深め、自分で判断するための材料を集めていきます。

NEW!

zoom
オンライン対応

定員 5名 お早めに!
『経済』

火曜日 20:10~21:30 (予定) 講師: 谷田利文

広く経済に関する本を、ご要望をもとに読んで読んでいきます。諸富徹『ヒューマニティーズ 経済学』(岩波書店、2009年)、I・ウォーラーステイン、川北稔『近代世界システムI—農業資本主義と「ヨーロッパ世界経済」の成立』(名古屋大学出版会、2013年)などがテキスト候補です。



春学期から始まった「現代社会を考える(MMTを理解する)」では、参院選で話題になり、コロナ禍の中で、再び関心が高まっている MMT (現代貨幣理論) を理解することを目標としています。MMT については、その賛否をめぐって激しい議論がなされていますが、この講座ではどちらかの立場に立つのではなく、まずは理解を深め、自分で判断するための材料を集めていこうと思っています。

そのため、まずは井上智洋『MMT 現代貨幣理論とは何か』(講談社選書メチエ、2019年)と藤井聡『MMTによる令和「新」経済論 現代貨幣理論の真実』(晶文社、2019年)等の解説本から始め、次に MMT の提唱者の一人である L・ランダル・レイの『MMT 現代貨幣理論入門』(東洋経済新報社、2019年)を読みました。

MMT については、政府がいくらでも借金できるというトンデモ理論だという批判がしばしばなされますが、インフレ率が2%を超えないようにするという基準が明示されており、またデフレが続く日本においてこそ、インフレに注意しながらも、積極的な財政政策を行う余地が大きいと思われれます。以上のような MMT の有用性について評価しながらクラスでは自由な議論を行いました。例えば、貨幣の起源を金属貨幣ではなく、割符などの貸し借りの記録だとする点に対し、歴史的には両者が存在していたのであり、どちらかを起源としたり本質だとする意味はあるのかという意見が出ました。レイは貨幣が使われる根拠を、租税の支払に使えるからだ論じているのですが、前提となっている租税を課す国家の存在が気になります。歴史学では、強力な中央集権的な国家の存在が疑われ、地方分権的な実像が示されたり、国家の枠組を超えた商業のネットワークが着目されていますので、歴史的な説得性には疑問が残ります。また、MMT の政策の一つである、完全雇用のための就業保証プログラムについて、失業率よりも非正規労働が問題となっている日本には合わないのではという意見も出ました。

その後、このクラスは「経済」に名前を変え、広く経済に関する本を、要望をもとに読んで読んでいます。まず、諸富徹『ヒューマニティーズ 経済学』(岩波書店、2009年)を読み、現在は、I・ウォーラーステイン、川北稔『近代世界システムI—農業資本主義と「ヨーロッパ世界経済」の成立』(名古屋大学出版会、2013年)を読んでいます。最近では、高校世界史の教科書にも出てくるようですが、中高生には、読みやすく知的な面白さが味わえる川北稔『砂糖の世界史』(岩波ジュニア新書、1996年)をおすすめします。

冬学期からは MMT について新たなクラスが始まり、『MMT 現代貨幣理論入門』を毎回1章ずつ読んでいます。仕事をされている中で、社会への疑問・関心が湧き、改めて経済学等を学ぶことで、自分を変えたいという、学ぶ意義についてお聞きしたり、銀行で働かれている方に、MMT の議論で重要な銀行における信用創造や、準備預金についてお聞きしたりと、議論が盛り上がっています。

社会に出て働く中で改めて学ぶ必要性や、学びたいという欲求を感じた方が集い、その思いを共有したり、議論の中でお互いに新たな発想の種を見つけられるような場にできればと思っています。

■ 各種お申込み・お問い合わせは、
ホームページ「お問い合わせ」またはこちらへ。
TEL: 075-781-3215 (13:30~21:30 留守録可能)

山の学校 検索

※ 大人向けクラスは、意欲ある中高生の参加も可能! ご相談下さい。

NEW!

zoom
オンライン対応

『現代世界史』

日曜 10:30~11:50 予定 講師: 吉川弘晃

本クラスは、19~20 世紀の歴史を扱う研究書を批判的に読んでいくことで、現代の国内外の様々な情勢を複眼的に理解できるようにします。「批判的に読む」と述べたのは、具体的には、①著者の意見と先行研究や資料の引用とを明確に区別する、②各節・各章の話が全体を構成する際の「物語り」が成功しているかどうかを吟味する、③その上で読み手自身の批判的な視点を形成するよう努める、という 3 点に注意して読書を行う方法を身につけるといことです。

秋学期には『世界大恐慌: 1929 年に何が起きたか』(講談社学術文庫、2009 年) をゆっくり読んでいきました。本書は 1929 年にウォール街から発生した全世界的な経済恐慌を扱うものです。なぜ 20 年代の合衆国で金融パニックが生じたのか、恐慌は(日本を含めた)各地でどのような影響を及ぼしたのか、合衆国は恐慌にいかなる手段を講じたのか、そして 90 年前の「世界恐慌」から我々が学ぶべき教訓は何か…といった問題を筆者は提起しています。

本書はもともと学術書です。一線の研究者が多くの先行研究を整理した上で、独自の知見と視点を加え、自身の論理を展開するようなスタイルを取ります。専門家以外にも分かりやすくするために説明や補足事項を親切に入れてくれる一般書とは異なり、学術書は一定の専門知識をもった上で読まれるのを前提にしているのです。知らない用語が出てきたらそれを調べる必要がありますし、他の何冊かの入門書を読まねばならないこともよくあります。

いずれにせよ、学術書を読むためには、それ相応のコツ(と精神的負担)を必要としますが、詳しくは授業でお話するとして、ここでは皆さまの読書生活で最も基本的であり最も重要なこと、つまり書店や古本屋、図書館で本を手にとったら最初にやるべきことを 3 つ挙げておきます。

まずは、目次を確認することです。目次と睨めっこすれば、本全体の構成が、その本が何を扱っている(扱わない)かが分かるはず。この時点で、自分の求めていることが書いていない本、もしくは題名と内容が一致していない本(タイトルや帯に「裏切られる」ことが昨今は多いのです)を読書対象から除外することができます。

次に、著者を確認してください。多くの場合、本の裏表紙か末尾に著者の経歴が書いてあるはず。その人はどんな経歴をもっているか、何を仕事(専攻)にしてきたのか、信頼できる業績をもっているのか。近年はブログや SNS 発で一般書籍にデビューする場面が増えてきました。今まで注意されなかったけれど興味深い話題を扱う人が多い反面、不確かな証拠や扇情的なレトリックを売りにする論者も少なくありません。自分が読むべき本を見定めるための一つの指標として著者の経歴は参考になります。

第三に、序章を精読することです。良書のほとんどは、序章を読むだけでその本質を十分に汲み取ることができます。その本が何を問題にしているか、その対象はなぜ重要なのか、何をどこまでどのように明らかにするのか、つまり研究全体の目的・背景・手段・範囲がそこに書かれているはず。読者はその本から何を得られるのか(情報の性質と新規性)、逆に言えば「何(どの部分)を読まないべきか」をある程度、見極めることができます。

『ギリシア・ローマの歴史を読む』

NEW!

zoom
オンライン対応

定員 5 名 お早めに!

(時間未定。火・金以外のいずれの時間でも調整可能) 講師: 大野 普希

テキスト: M. Finley (1986), *The Use and Abuse of History* (2nd ed.), London
(なるべく第 2 版をご用意ください)

斬新な発想と緻密な分析によってギリシア・ローマ史研究に大きな足跡を残した希代の古代史家モーゼス・フィンリー、その円熟期の論考 12 編を集めた *The Use and Abuse of History* から、いくつかの章を選んで読み進めていきます。最初に取り上げる“The Ancient Greeks and Their Nation”は 10 頁ほどの小論ながら、**私たちが当たり前のように「古代ギリシア人」と呼ぶ人々にとって「ギリシア(人)」とは何であったのか**という根本的な問いを投げかける刺激的な論考です。

本書に収められた 12 篇は全て独立しているので、最初に取り上げる章以外は、特に読む順番は決めていません。ギリシア・ローマ史の個別テーマを論じたものから、歴史学の方法論を扱ったものまで、多種多様なラインナップの中から、受講生の方が興味を持った章を順次読破していきます。適宜文法事項も確認しながら一文ずつ丁寧に読み進めるので、ゆっくりじっくり英語を読みたい方におすすめです。

随時ご参加をお待ちしております!

